

【日本農業新聞 2015年8月11日付～8月16日付の紙面から】78回目

<コメント>

7月末の閣僚会合で大筋合意には至らなかったTPP交渉だが、国内の農業関係者の間には「伝えられる大幅譲歩では国会決議に違反」「日本農業への影響は甚大」と、深刻な危機感が広がっている。状況は、「閣僚会合をあと1回開けば決着できる」（安倍晋三首相）と、まさに瀬戸際。国益とは、貿易収支の数字だけではなく、日本の農村と日本人の食卓を守ることも重要なことだ。政府の暴走を阻止するため、踏ん張りどころである。

<概要>

### ■影響額は甚大／鈴木東大大学院教授 TPP交渉分析

【8月11日付1面】

東京大学大学院の鈴木宣弘教授は、TPP交渉やそれと並行する日米協議の調整案（報道ベース）を基に、日本農業への影響などをまとめた。「被害額は相当に大きなものになる」と見込み、中でも関税収入が国内対策の財源になっている畜産の影響が深刻だとみている。衆参農林水産委員会決議が示した重要5品目についてまとめた。米は、輸入増加圧力で一層の価格下落につながりかねないと警戒し、特に専門的経営へのダメージを懸念した。

### ■譲歩に怒り 即時脱退を／農水省に 北海道農民連盟

【8月11日付2面】

北海道農民連盟は10日、農水省を訪れ、阿部俊子副大臣にTPP交渉に関する要請をした。米国ハワイ州での閣僚会合で日本が大きく譲歩し、重要5品目の聖域確保を求めた国会決議を完全に逸脱しているとして、交渉から即時脱退するよう強く求めた。同連盟の石川純雄委員長は、全ての農産物で日本側が大きく譲歩したとする報道があると指摘。これが事実なら国会決議の完全な逸脱で、多くの農業者が強い憤りや不安を感じていると訴えた。

### ■TPP閣僚会合 「あと1回で決着」／参院予算委で 首相 交渉の漂流否定

【8月11日付3面】

参院予算委員会は10日、TPP交渉を含む政治課題について集中審議を行った。安倍晋三首相は「あと1回、閣僚会合が開かれれば決着できる」と述べた。交渉の漂流を否定して見せた格好だが、一方で厳しい交渉が続いていることも認めた。農産物交渉については、与野党から衆参両院農林水産委員会決議との整合性を追及する質疑が相次いだ。

### ■TPPで特別決議 重要品目 聖域確保を

【8月12日付1面】

J A全中は11日の臨時総会で、TPP交渉における国会決議の順守を求める特別決議を採択した。7月下旬の閣僚会合の声明で交渉は妥結間近だと強調される中、日本政府が重要品目で譲歩を容認したかのような報道が相次いでいることを懸念。報道通りならば「到底納得できない」とし、重要品目の聖域確保を求める国会決議の順守を政府・与党に訴え

るなど、「徹底した取り組みを展開していく」と表明した。

### ■民主 TPP検証で調査会設置へ／政府の譲歩姿勢批判

【8月13日付3面】

民主党が、TPP交渉に批判を強めている。交渉内容の情報開示がほとんどなく日本にとってのメリットが見えない一方、米などの重要5品目でも譲歩を余儀なくされ、国会決議に反している可能性が大きいとみているからだ。同党は早期にTPPに関する調査会を設置し、交渉状況を検証、国会論戦に備える。同党は7月末にTPP閣僚会合に合わせ、現地に派遣し情報収集。帰国後の報告で、TPPが漂流に向かっているとの見方を示した。

### ■「表現の自由制限」／東京でTPP考える催し 著作権も問題山積

【8月15日付社会面】

TPP交渉で難航する著作権条項を考えるイベントが14日、東京・江東区の東京ビッグサイトで開かれた。日本最大の同人誌即売会「コミックマーケット（コミケ）88」の一環で、交渉が最も難航する著作権など知的財産分野を考えるのが狙い。漫画家などからは「表現の自由が制限される」と心配する声が上がった。150人以上が集まった。

以上